

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を継続しているが、事業計画の策定にあたっては理念と一致した内容であるかを検討しており、計画の進捗確認においても職員間で話し合うようにしている。	開所当初母体の理念を基に、職員全体でどのような介護をしていきたいかを話し合い、「みんなで楽しく暮らしたい」を理念として掲げ、管理者と職員は共有し、会議時や日々の中でも振り返りを持ちながら、家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりに丁寧な対応を心がけ、サービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の季節行事やコミュニティセンターの体操教室に定期的に参加し、また認知症カフェを今年度から開催、ぢりめき祭りにお招きするなど相互間交流を進めている。	地域住民の一員として町内自治会に加入しており、回覧板にて相互の情報を共有し、中学生の職場体験や実習生の受け入れ、ボランティアの受け入れにも積極的に取り組んでいる。また、近隣の方々とは日頃から気軽に声をかけ合い、頂いた野菜を食材に活かす等、良好な関係を築いて来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの開催にあたり自治会に相談しながら開催内容を工夫しています。今年度からカフェを開催するにあたり個別訪問をさせていただく中でご相談を頂く機会があり重要性を認識させられました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しカフェに関しては包括職員も交えて意見交換を行っている。日頃の運営についてもご提案があるなどサービスに生かすことができている。	運営推進会議は定期的開催されており、状況報告、取り組み状況について報告され、意見を頂いている。今後は利用者や家族の参加も得て、より幅広い意見の収集に努め、サービス向上に活かして行きたいと考えている。また、会議の会議録についても全職員への周知が得られるよう考えているところである。	会議メンバーがより生活の様子をイメージできるよう、利用者や家族の参加も進め、取り組み内容や具体的な課題について深め合うことが望まれる。会議の議事録についても全職員の周知共有を図ることで、更なるサービス向上に活かしていくことが期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新発田市事業の相談員訪問と、新発田市合同カフェ(ランとも)開催もあり、グループホームの状況は把握する機会が多くある。合同行事を通じて市と協力する機会も増えた。	市担当職員との積極的な連携が構築されており、利用者の状況やニーズを伝え、随時、気軽に相談、助言、連絡等の連携を深めている。また、2ヶ月毎に市の担当職員の訪問もあり、利用者の様子や運営状況の確認なども対応してもらえる機会もあり、日頃から不明点があれば、気軽に相談できる関係性を築いている。	
5	(4)				
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において、言葉による抑制を行わないルールも作り職員たちの行動の振り返りも行うことができた。継続的に職員に働きかけていきたい。	内部研修の中で身体拘束に限らず、言葉による具体的な学びを実施して、利用者の尊厳を守るための認識を深めている。また、利用者の事業所内外の動きについてもさりげなく職員が付き添うなど配慮に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は身体チェック表を追加して皮下出血といったケアを通じたケアの予防措置に力を入れており、ご利用者様の安全確保に向けて取り組みを強化しているところである。	日々の暮らしの中で「高齢者虐待法」に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。気付きのある時はお互いに話し合いながら利用者の行動を制限することなく、自由な暮らしの支援に努めている。また、職員のストレスが蓄積されないよう、管理者は職員の様子を確認しながら声をかけたり、相談事にも応じる関係性を築いている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルがあり、職員に成年後見人制度について説明する機会も設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には2名で説明を行い、改定等に関しては文書及び口頭(電話連絡等)で行うことで不足のないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度より利用者様の誕生会にご家族様を招き、個別面談をさせていただいており様々なお話を聞く機会となった。誕生会の間はご利用者様の普段のご様子を見ていただけるのでご感想やご意見が頂けているようだ。	日々の関わりの中で利用者の何気ない会話の中から、意見や要望を引き出せるように心がけ、家族からは毎月送付する手紙の中や面会時に問いかけ、何でも話してもらえような雰囲気づくりに努めている。頂いた意見は運営推進会議や職員会議の中で話し合わせ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット内会議を各月1回定例開催し主任若しくは介護主任との個人面談は不定期で開催し職員の意見を述べる場を設けており、また事業計画についても職員が作成し進めている。	職員会議やミーティングの他、管理者は職員個々とのコミュニケーションの機会も設け、何でも言い易い雰囲気づくりに配慮している。また、随時の個人面談でも意見や要望を伺い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	組織権限に基づいて改善が必要な場合には他事業所長らとの定例会議で検討して理事長に提案し、その結果に関しても随時、反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成29年度はレクリエーション研修を外部講師に委託して受講。法人委員会活動及び研修活動を通じた育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新発田市が主催する認知症カフェの実行委員に入りお手伝いを通じた交流を今年度から始めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様にも見学いただけるようお願いしお話しする時間を頂いている。ケアプラン作成にあたりご家族様、ご本人様に直接お話を伺える時間を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に自身や他の利用者様の体験をお話ししながらご家族様の想いやご要望を引き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談やお申し込みの際に本人様とご家族様のお話を伺い、必要な情報を提供できるようパンフレット等を用いて対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助量が増えるにつれて支えあう意義を見失ってしまうことがあるので、事業計画として家事参加や役割づくりを進めており実践している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様に現況報告書及び写真を送付して生活状況が分かるようにしている。受診に際してはご家族様の意向に合わせて付き添いを頂いており草刈りを定期的にボランティアでくださる方もおられる。	家族へは毎月送付する手紙の中で、担当職員から本人の日々の様子や職員の思いを伝えている。また、家庭行事に合わせた外泊の機会もあり、外出、受診時や衣替えの時期など、家族との協力体制も良く相互の役割についても話し合いながら、情報提供も密に行われ共に支え合う関係性が築かれている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長く入居する中で知人が亡くなったり縁遠くなってしまわれるので、本人様の誕生日に招いたり、可能な方は一緒に出掛けしている。	誰でもが立ち寄ることの出来る事業所としての雰囲気づくりを心がけ、友人、知人の面会時にはゆっくと寛いでもらえるようにしており、今までの地域との関係性が途切れないよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のお席を定位置化することで、顔なじみになり入院等があると心配されている。ご利用者同士の会話の無い交流も大切なものであると考えており家事と一緒にしていただくといった働きかけも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は施設でお亡くなりになった方と同一敷地施設へ移った方がおられた。亡くなった方のご家族は近隣のお宅なので地域行事等でお話しする機会があり関係は良好である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式で長期入居となっている方も定期的に意向やご希望を確認できるようアセスメントする機会を設けている。会議等でその情報に基づいてケアを検討するといった工夫を行っている。	入居前のアセスメントシートの活用や日常の関わりの中で、その人の思いや希望の把握に努めている。また、担当職員が中心となり、今までの暮らしが継続できるよう、定期的にあセスメントの機会を設けており、職員間で共有が図られている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度に入居された方々はご自宅に伺うことができなかったのがご家族様や施設担当職員からお話を伺ったり、入居してから直接ご本人様にお話を伺う機会を設けた。	入居前に家族からセンター方式のアセスメント票の一部に、今迄の暮らしぶりを記載してもらい、前担当者からの情報も得ながら担当職員が中心となり情報収集を行っている。入居後も本人との関わりの中でアンケートを実施し、趣味や得意なものの把握に努め、利用者をより深く理解することに努めている。これまでの生活が継続できるよう丁寧な支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを通して、できることやしたいことを探り、ユニット担当の職員らと会議の中で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを月1回に変更し現状の把握を始め誕生会にご家族様をお招きした際に話し合うようにしたところ、職員らからケア提案することが増えている。継続していきたい。	担当職員がセンター方式のアセスメントシートを活用して、月1回のモニタリングを開催している。日々のケア記録の検討や提案を重ねながら現状の把握に努めている。利用者の誕生月に家族を招待し、本人、家族の意見、要望なども参考に、利用者主体の介護計画の作成や見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたことを個別ケース記録や連絡ノートに記録し、職員全員が目を通して。重要なことに関しては、口頭で申し送りを行い情報共有を進めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに対して、すべてを応えられなかったとしても可能な部分や工夫によってサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧板や運営推進会議を通じて地域活動等を把握している。地域の作品展は定例化しており知人に会う機会にもなっているようだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望する主治医に継続して医療を受けることができるようにしている。また嘱託医が主治医に情報提供してくださるなどの連携が図れている。	利用者、家族が望むかかりつけ医や症状に応じた専門医の受診を支援している。家族の受診協力も良く利用者は安心して通院できている。受診の際には嘱託医と主治医は随時連絡を取り合い情報を共有している。週1回の往診や訪問看護を通じての連携も図られるなど、利用者が安心できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪し健康支援を受けている。顔なじみになるのでご利用者様も心待ちにされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院と情報交換を速やかに行い、身体状態や状況を確認する。本人様、ご家族様、病院関係者との相談の機会を持ち、安心して治療ができる体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化対応と看取り介護について説明し方針をお伝えした上でそのご意思についても伺うようにしている。心身の状態変化があった際にもお伺いしご意向にそった対応を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居契約時に事業所の方針を伝えて意思の確認を伺うように努めている。また、看取りについての職員研修や勉強会を行い、支援体制の共通理解の取り組みを行っている。可能な限り、利用者、家族の意向を踏まえながら、嘱託医、訪問看護等との連携を図り、家族の要望に沿った支援を提供している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な応急対応は習得させており、対応マニュアルについては電話付近に掲示している。訪問看護師からその方の病状に応じた観察ポイントを指導していただき緊急時に備えている。	職員は応急手当や事故発生時に備えて、訪問看護師や研修等で基本的な知識や実践力を身に付けている。電話口の傍に緊急時事故対応マニュアルを掲示して、迅速な対応ができるよう周知徹底を図っている。併設施設との連携体制も構築されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同訓練と事業所訓練の年2回実施している。地域の消防団との合同訓練は来年度に行えるよう計画を進めている。	年間防災計画に従い、併設施設と合同訓練を実施し、夜間を想定し定期的に避難訓練を実施している。避難場所、避難経路の確認、火災、地震、水害、備蓄などの準備も整っている。現在、地域の消防団との合同訓練を近隣住民の協力体制を得ながら実施していく計画を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の言葉かけや対応に留意して研修の機会も確保している。各職員の振り返りの機会を設けており、職員間で評価するようにしている。	職員は接遇、プライバシー保護について研修を実施し、基本を踏まえ、一人ひとりに合わせた対応に心がけている。研修、勉強会を開催した後は振り返りの機会を設けている。今回、職員間での評価を活かした、さりげない行動や、言葉遣い、目線など、ユマニチュードケア実践の取り組みが窺われた。	研修、勉強会などを実施し振り返りの機会をもち、個々に合わせた対応に心がけ、座位時の足置き台や姿勢の崩れなどへのさりげないケアの工夫がなされていた。今後は研修資料や記録物の保管場所について、職員全体の周知を得ていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人様に伺いながら選択の機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペース、体調や気分に合わせて支援するように心がけている。気分が乗らない日には延期してお気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師(理容師)に散髪を依頼し、髭剃りや爪切りは定期的に職員が確認をしている。その方が選んだ衣類を着用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから調理にも参加していただき、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。季節の野菜を畑から収穫できるので旬を楽しめている。	リビング内も広く利用者の状態や意欲に合わせて、調理から片づけまで職員と一緒にやっている。四季を通じて畑で採れた旬の食材を使い、郷土料理を取り入れたメニューを楽しんでいる。和やかな雰囲気の中、職員と共に食事作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの考慮だけでなく、嚥下機能や口腔機能に応じた食事形態や飲み物を提供し、食事量が減っている方にはお好きな物を召し上がれるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援を考えながら毎食後に実施している。ご本人様の状態に応じて口腔ケアの方法を職員と共に検討し対策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し日中はトイレを使用したり夜間はオムツに切り替えるといったその方の状態に合わせた対応を行っている。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握と利用者の身体能力に応じた適切な介助やさりげない誘導、声掛け、見守りが行われている。日中はトイレでの排泄を基本として、自立に向けた支援と機能低下予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らずに食物繊維を含んだものや乳製品を摂っていただけるようにして、水分確保のためにお好きな飲み物を提供するようにしている。毎日の体操を取り入れて便通が良くなるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回で希望に応じて入浴を提供できるようにしている。同性介助や入浴の順番といったことについてもご利用者様のご希望に添って対応している。	週2～3回の入浴を基本としているが、個々の希望時間や状態に配慮した個別対応に努めており、入浴順番や同性介護にも心がけ、希望に沿った方法で対応している。快適に入浴できるよう、アロマを使ったり、季節湯も工夫されるなど利用者から好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターンを把握して生活習慣に沿った臥床支援を行っている。終日臥床しがちな方に関しては、夜間の安眠に影響がでないように、日中に離床する時間を設けられるようお好きな活動を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	苦しい内容を確認したいときに見ることができるよう個人様のファイルに挟んでいる。薬剤師が薬を配達して下さるのでその際に個別の相談ができており、記録にも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みに応じた活動ができるよう事業計画に盛り込んだ部分と、心身の状態に合わせてその方がしたいことをお願いするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度から重度化してこられている方にも外出していただけるように計画的な外出も増やしている。足湯に行ったり、近隣のぶどう園でブドウ狩りを楽しむといった活動をお一人様だけお連れすることで外出頻度の減った方にも対応するようにして好評である。	日常的に車イスの方も含めた外出、散歩など、四季折々の計画を立てており、温泉足湯やブドウ園でのブドウ狩り等、生活の一環として出かける回数を増やし好評を得ている。また、家族の協力を得て、希望の場所への外出支援も行われ生活の活性化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人暮らしをされていた方が入居され現金を管理して暮らしている。ご家族様と協議しながら状態に合わせた対応を進めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや本人用携帯電話での取次ぎ支援も行っている。お手紙が届くと大変お喜びになるので返信支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・ダイニングは9名様が過ごせるよう広くゆったりしており、中央に配した台所からも調理の様子が見えるので生活感や安心感につながっている。ソファを複数配置してお好きなペースで過ごしていただいている。	リビングの共有空間は広く、天井の梁も高く開放感があり、利用者の作品や行事の写真を掲示するなど四季を感じさせる装飾が施されている。アロマの甘い香りが環境にも優しく落ち着いて過ごせる雰囲気を出している。リビングや厨房も広く、食事作りも利用者と職員が共に調理し、匂いや音の生活感が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	猫を眺められる場所やお一人で過ごせるようなベンチを設けて、お一人お一人やお気に入り空間となるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて自由に調度品や家具を持ち込んでいただいている。居室入口にお名前掲示したり、その方が分かる写真を掲示するなど動きやすいよう工夫している。	一人ひとりの部屋の玄関が違い、本人好みの装飾がなされている。室内には使い慣れた家具や日用品が置かれ、今迄の環境と変わらない安心で落ち着いた居室作りに努めている。日々の整理整頓を心がけ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂、居室入口等は分かりやすい目印を入れるといった空をし、居室はその方に合わせた移動動線となるよう家具の配置を工夫している。		